

平成25年度 第1回和光市地域福祉計画推進委員会 会議録（要録）

日 時 平成25年7月9日（火） 午後2時～午後4時

場 所 和光市役所 4階 401会議室

委 員 13名

	所 属 団 体 等	氏 名
学識経験者	立教大学コミュニティ福祉学部長	◎森本 佳樹
関係団体代表	和光市自治会連合会	川勝 明治
	和光市民生委員児童委員協議会	花岡 里恵子
	和光市ボランティア連絡会	藤本 美智子
	和光市内 NPO	○山本 恵子
社会福祉、 保健又は医療 従事者	朝霞地区医師会和光支部長	天野 教之
	和光市社会福祉協議会 地域福祉係	川村 玄
	朝霞地区一部事務組合 すわ緑風園 園長	森田 康彦【欠席】
	中央地域包括支援センター センター長	川淵 由美
その他市長が 必要と認める 者	和光市チャレンジド団体連絡協議会	小宮 正浩
公募による 市民		松永 靖恵
		亀田 勝枝
		栗原 眞須美

◎会長 ○副会長

【事務局】社会福祉課 星野課長、岸本課長補佐 森谷統括主査 野口主任

【傍聴者】なし

1 第二次和光市地域福祉計画進捗状況報告について

事務局説明

・資料「調査票」を説明

▼体系1 参加と交流について

【川村委員】「地域リーダー、交流プランナーの育成（再掲）」について、産業支援課の事業達成状況が「E 取り組んでいない」となっているのはなぜか。

【事務局】産業支援課の計画にはないため、E となっている。ただし、この取組みについては、市民活動推進が担っている。産業支援課の部分については、次年度削除する。

【森本会長】「地域内での声かけ・見守りのネットワークづくり」について、社会福祉課の事業の達成状況が「D 順調ではない」となっているのはなぜか。

【事務局】災害時要援護者の名簿はできたが、障害者との連携ができていないからである。なお、現在、この事業については、社会福祉課と危機管理室と長寿あんしん課の3課が担当している。

【森本会長】自立支援と災害時要援護者名簿の活用は今後の課題か。

【事務局】そうである。自立支援については、今後、障害者一人ひとりに沿った個別支援計画を作っていく必要がある。また、要援護者については、災害時における避難ルートの作成が求められる。

【山本委員】要援護者に精神障害者手帳2級の方を含めてほしいと提案した。

【事務局】国の指針では、精神障害者手帳2級の方は自力で避難できると判断しているため、要援護者には含めなかった。

【亀田委員】「空き店舗、戸建賃貸の借上による、高齢者、チャレンジド、世代間の交流の場の設置」について「E 取り組んでいない」となっているのはなぜか。

【森本会長】地域福祉計画には位置付けられているが、各課の業務に位置付けられていないものもある。機会があれば実施する程度になっているが、もちろん予算化もされていないので、実施は難しい。限られた予算の中、優先順位を付けて事業を実施するので、このような未実施のものも出てきてしまう。

【花岡委員】一時期、市からペットボトルが配布され、当事者が使用している医者や薬の場所、緊急連絡先のメモを入れ、冷蔵庫に保管することを依頼され、実施していた。災害時要援護者にペットボトルを配布してはどうか。

【川勝委員】自治会でも配布していた。

【事務局】在庫や通常時と緊急時の扱いの違い等を確認する。（＊1）

【天野委員】ペットボトルを配布するときは、要援護者の支援者が配布した方がこの仕組みの効果があるのではないか。

▼体系2 いきいきとした地域社会づくりについて

【川村委員】去年は、支え合いマップづくりを4地区で行った。

【森本会長】マップづくりできる人の育成はしているのか。

【川村委員】社協職員がコーディネートしている地区が多い。地区によって温度差があり、率先的に参加、協力する地区もあれば、社協一任の地区もある。

【森本会長】市民が今後コーディネートできるように事業をすることが大切である。

▼体系3 地域での自立した生活の継続について

体系4 安心できる生活の仕組みづくりについて

体系5 安心のある環境づくりについて

【山本委員】「緊急通報システムの検討」について、社会福祉課が「F 既に完了している」

となっているのは、なぜか。

【事務局】緊急通報システムを導入したため、完了としている。

【天野委員】「小児救急医療支援の充実」について、事業の達成状況が「A 計画通り」となっている。志木市民病院の小児科がなくなり、4市の医師が必死に調整した。市は何かしたのか。自己評価が甘いのではないか。

【森本会長】志木市民病院が小児科を担当しなくなったことで、4市の小児医療の受け入れ量は落ちたのか。

【天野委員】落ちている。各医者負担が大変増加した。

【森本会長】A 評価とした理由を事務局は確認してほしい。（＊2）

【事務局】確認する。

（＊1）について担当に確認を行った。

9月現在の在庫は、960個である。通常時と緊急時（災害等）の扱いについての違いはない。なお、すでに、自治会の協力が得られた場所については、支援者から要援護者にペットボトルの受け渡しをしている。

（＊2）について担当に確認を行った。

調査票備考にあるとおり、下記3点からA評価とした。

①H24.10.1～H26.3.31 まで小児医療に携わる医師の育成及び確保並びに小児救急医療の充実を図るため、慶応義塾、埼玉県、朝霞地区4市、埼玉病院で寄附講座を設置した。

②H24.11.1 からイムス富士見総合病院が朝霞地区小児二次救急輪番に参加した。

③H25.1.19 小児救急の安易な受診を防ぐため、朝霞地区4市共同市民講演会を実施した。

2 第二次和光市地域福祉計画進捗状況報告（重点施策）について

事務局説明

資料「第二次和光市地域福祉計画指標（重点施策）」を説明

- ・この重点施策は、アウトプットではなくアウトカムを見るためのものである。

▼居場所づくり・地域につながるについて

【天野委員】「寄り合いどころ たまりば」には、延べ3,720人が来ているが、実際には何人ぐらいの人が立ち寄っているのか。既存の人だけではなく、新規の人が来やすいことが大切である。

【森本会長】管理人はいるのか。

【川村委員】ボランティアスタッフが担っている。

【藤本委員】ふらっと立ち寄る方もいる。立ち寄って話すことで、保健センターに行くようになり、行動範囲が広がった方もいる。

▼地域交流を盛んにする・世代間交流を楽しむ・関係団体（機関）との連携について
【天野委員】「企業の社会貢献活動の支援（４社）」については、企業名を出した方が数も増えるのではないかな。

▼訪問としての支援・支えあいの仕組みづくり・節度あるおせっかい・情報共有について

【森本会長】地域福祉は、３年前より進んだのか。

【川村委員】社協では、モデル地区や小地域福祉活動支援事業を通してみると、以前と比べると進んでいる印象がある。

【花岡委員】民生委員の仕事も多くなった。自助共助の認識のある方が増えてきたのではないかな。

【森本会長】市内８地区に差はあるものの、地域福祉は進んでいるのではないかな。

【天野委員】地区の差はどこから生じるのか。

【森本会長】自治会のような受け皿があるか、そこにリーダーがいるかがポイントではないかな。

【川村委員】自治会長のリーダーシップは大きい。社協ありきでなく動いている。

【森本会長】地域に沿った社協の働きかけができるとうい。

３ 部会の設置について

事務局説明

資料 １ を説明

・第 ３ 期計画策定に向けた検討会について

【森本会長】多くの自治体で、地域福祉計画は、社協の計画と一体的に作成している。そのためには、理念のすり合わせや役割分担の検討を十分にしなければいけない。また、地域福祉計画は、他の計画を包含するものである。計画を策定する際には、他の計画の関係性や連動性を意識することが必要である。

【事務局】市も社協と一体で計画を作る方向性を持っている。まずはコンセプトを作ることが求められる。

【山本委員】社協と一体で計画を作るイメージが浮かばない。

【森本会長】会議のやり方の検討が必要である。新座市では、計画書を市と社協で分けずに、１冊で作成した。

【森本会長】では、地域福祉計画策定部会を立ち上げてよいかな。

【一 同】異議なし。

【事務局】計画準備部会に入っただけの方は、事務局までお知らせください。

4 その他について

【 事務局 】 例年、この会議は年 3 回開催している。今後の会議は、12 月と 2 月を予定している。日程調整は別途行う。